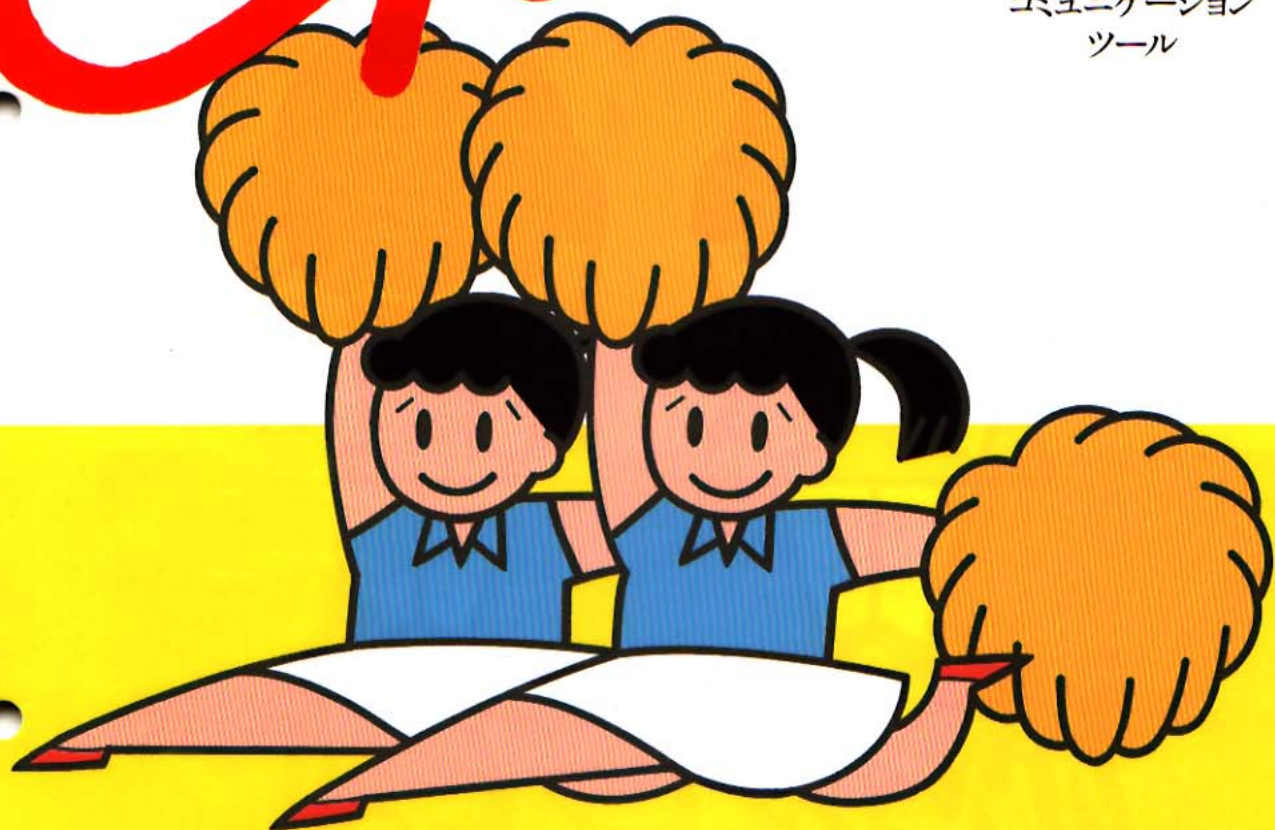


Cheer

2

京都学園大学同窓会報
ツーウェイ
コミュニケーション
ツール



Cheer [tʃiə/tʃɪr] 激励、喝采、歡呼、
声援、応援。また、励ますこと。声援・
応援すること。気分がよいこと。元氣
がよいこと。御馳走。おいしいこと。

INDEX

OBメッセージ

同窓生からの手紙

KGUゼミOB座談会

田杉競ゼミナール

フリートーク

フォト・ドキュメント

野球部ドキュメント

がんばってます

卒業生ドキュメント

元祖「ぼたん鍋」の味を
現代人の嗜好に生かす

京都学園大学20周年に

ビジネス法学を目指して
法学部増設を申請

往復書簡

京都学園大学同窓会

昭和61年度決算書

KGUクラブ活動記録

人事

同窓生からの手紙

遠く離れた地に住むOBたち。母校に寄せる想いは人一倍強い。

松元 志津子(旧姓 川上)(昭和53年卒)

ライン河畔の街、
デュッセルドルフからの便り。

デュッセルドルフは、ライン川沿いに開けた西ドイツきっての商業都市。首都ボン、文化都市ケルンも近い。同窓生からの手紙は、この街から、一枚のエアメールとなって、ヨーロッパの空を横断した。



拝啓
11月大変お世話になりました。この度、西ドイツ・デュッセルドルフの街を訪問いたしました。下記の通りお返せいたします

松元志津子 (旧姓 川上)
Niederkasseler Kirchweg 46
4000 Düsseldorf 11 F.R.G.
電話 (0211) 554870
日本連絡先 〒630 原市島本町104-07 松元直子
電話 (0743) 61-2430

デュッセルドルフは日本人約5000人あり、日本人学校幼稚園もあり、マートは日本企業も多いため、日本人には大変便利な所です。日本人はほぼヨーロッパ中心に(2. 活躍する企業)の日本人(多)あり。物外生活といた、日本とありかかわりです。では同窓会の繁栄と、皆様のご活躍を、
1985年4月10日 松元志津子

●Düsseldorf
●Köln
●Bonn

いっしょに、



応援してよ!

おやおや、Cheer girl、なんだか元気がありません。会報誌「Cheer」の応援を求めているようです。創刊号では元気いっぱい表紙を飾っていたのに、これではいけませんね。物事、始まりは勢いづいても持続するのはなかなか難しいものです。「Cheer」も二号め。創刊号の景気の良さを引き継いでゆくに、会員のみなさんからの応援が必要なのです。

みなさんの身の回りに起こった出来事、例えば、会社のこと、恋人のこと、学校での思い出、なんでもいいのです。写真であれ、手紙であれ、「Cheer」に寄せてください。「Cheer」は、激励、喝采、声援を意味します。みなさんからの「Cheer」お待ちしています。

投稿、写真、手紙、なんでも大募集!

- 応援のしかた
 - 一、投稿：内容は不問。量の多少は問いません。
 - 二、写真：見合い写真、古い写真、近況写真、なんでも結構。
 - 三、その他
- 以上のものを京都学園大学同窓会編集部へ郵送してください。応援して下さった方には、粗品をさしあげます。

田杉 競 ゼミナール

77歳を迎えられた田杉先生。その喜寿を祝って集まった仲間たち。この日ばかりは、それぞれの生きる社会を離れ、昔の思い出話に花が咲く——。(S.60年6月) 金森義生(昭和52年卒)

起 現況は、丑年の干支を因む、「根気と堅実」さに、厳しく経営内容が問われているのかのようで、更に試練を耐え重ね、今後も強靱に鍛えて挑むほか、自営戦略に余念がない。

所謂、経済低成長期に入り、今や情報化社会ということで、各業界各種各様に活況を呼び起こすまいと、懸命な情報の

展開が、殊に盛んな今日この頃である。

承 扱て同窓会は、昨年にも会報誌「Cheer」の創刊号と至り、同窓会全員の関心と協力を得て、何より多くの情報の展開により、今後いつまでも継続を果さねばならない、大きな事業活動のひとつであると思われま。

そこで、西村先生のゼミOB会に始まり、次に川畑先生のゼミOB座談会をされた時の模様から、我々のゼミも参考に、半年かけたもくろみにて後続へと、本年の半端に田杉先生の「喜寿御祝」旁々、第五期同窓ゼミ座談会を催すに至った次第でございます。

転 ご覧の通り、近況や雑感などを申し添えてご出席を願ったせいか、芳しからぬ出席率に要領が得られず、凡そ京都ホテルで行うほどになく、遂に同ゼミの、新婚ほやほやな豊田又成氏の営む店に変更し、京の台所を賄う、錦通りで寿司・御料理店といえば随一軒、自ずと老舗で知られる伊豫又さんにて、お頼み申したわけでございます。

当日は、田杉先生御夫婦揃いにて、お越しくさるよう願っての適えに、それは楽しい愉快なひとときを過ごしたのであり、とりわけ経済・経営学問の難しい談話でなく、先生御夫婦の睦まやかな、意外にも庶民的なお話は何ら屈託のない、我々もまた気負うに及ばない、極、自然に親しく和んだ次第、いつも同じ屋根の下で暮らし、ずっと日常生活を共に過ご

していたような雰囲気だった。

新婚まもない豊田君の肝煎れが、若奥様が次々と配善される御馳走に、目を丸くして舌鼓をうち、本当に麗しく華やいだのである。

転 まるで、浦島太郎が龍宮城で過ごしたような気持ちにさえ、時間がたつのも、大学歌の斉唱で閉会するの忘れてしまう程、全く、和んだ団楽を過ごし、いつのまにやら窓越し暗く感じたのが、8時頃であったと覚える。

田杉先生から、玉手箱にかわるお土産を開けば、先生が、現在もお元気で母校の発展に挺身してられる傍、尚も多様なご趣味に興じておられ、人生を楽し

くお過ごしになるご様子、お伺い知り得るのでございます。

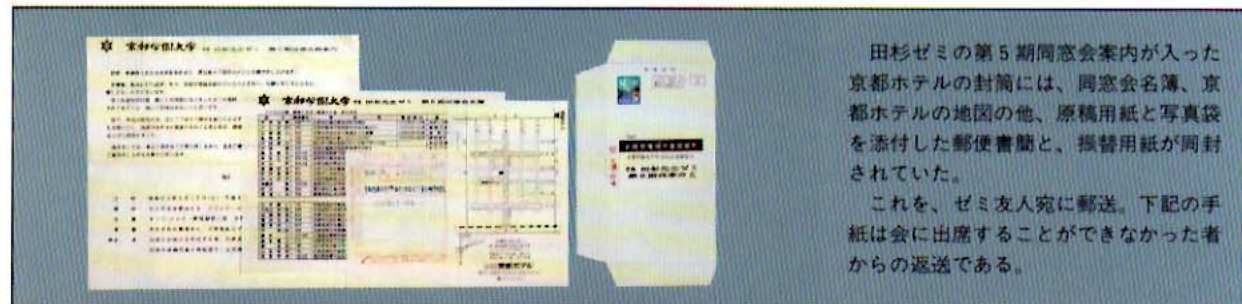
それは田杉先生の筆画による、名画を頂戴したことであり、あまりの歡喜に、是非、全同窓会員にも分かち、会報を通じてご覧あれと思ひ、早速お許しを乞う御相談をしたところ、幸い御快諾くださったのでございます。

次に、遠隔地に居住する大半のゼミ友人が、今回残念ながら、御出席を願えなかったけれども、数通、近況を知らせて貰っておるので、ここに掲載して紹介したい。

決 今回の企画については、専ら同ゼミの、大石宏昭氏と相談・協議を図り、彼

が熱誠と共に貰った訳であるが、僅かな出席者で一体どうしようか始終案じてばかり、万事、自負に帰した訳である。

我々第五期生が、曾在学の頃、少人数教育で、Man-to-man形式による専門ゼミナールが重視されていたことに否めないが、何卒もう少しのご出席に願ひ度く、そして次回には、一期生の諸先輩から全期に亘る、田杉先生の総期ゼミ同窓会を催す所存でございます故、呉々も宜敷く御願ひし、最後に、どうか京都学園大学の同窓理事各位、更にご尽力の程をモウし上げ、豊富な情報の展開により、会報が継続されてゆきますよう、勢い向かうトラ年に馳せ、慈眼一心に念じる失礼な次第、OB座談会の模様まで。



田杉ゼミの第5期同窓会案内が入った京都ホテルの封筒には、同窓会名簿、京都ホテルの地図の他、原稿用紙と写真袋を添付した郵便書簡と、振替用紙が同封されていた。これを、ゼミ友人宛に郵送。下記の手紙は会に出席することができなかった者からの返送である。



▲金森義生、豊田又成、田杉先生の御内室、松山好伸(左から)

先生、喜寿おめでとうございます。僕たち、精一杯、頑張っています。



墨友健司(昭和52年卒)
社会福祉法人高島会
藤美寮勤務

私の仕事は、精神薄弱者が、社会的に自立できるよう、訓練と指導を行うことにあります。施設が閉所してから7年になりますが、年々重度化、高齢化が進み、生活面での自立が難しい人が多くなっています。

私は、これらの人達の生活面での指導と作業指導として、陶芸と作物の栽培を行っています。医学的にも解明されていない部分が多い分野ですが、精一杯努力し、専門的知識を深めてゆきたいと思っています。



築 昌宏(昭和52年卒)
下松郵便局勤務

私は、大学在学中、オーディオの魅力に取り付けられました。最近では、VTRも趣味のひとつとなりました。

あの学園大で過ごした4年間、自分の目で見た場面を、VTRのように鮮明に記憶して、プレイバックできれば、どんなに現在を楽しめることでしょうか。学校教育は盛大かつ見事な時間の浪費であると言われますが、私はその浪費の最後において、人生の生き方、進むべき道を得てきたと思っています。



森本雅之(昭和52年卒)
佐溝会計事務所勤務

現在、兵庫県、淡路島の洲本市に妻と長女(4歳)、長男(1歳)の4人家族で暮らしております。会計事務所に勤めるかわら、夜は税理士試験の勉強をしています。

本年6月8日の大鳴門橋開通をきっかけに、四国からの企業進出など淡路島の経済は、大きく揺れ動くことでしょう。それゆえ、先を見る目を養い、顧問先の健全な経営に少しでも役立つことができるよう、努力を積んでゆきつづけています。



村田 誠(昭和52年卒)
丸丸愛勤務

大学を卒業して、早8年の年月が経ちました。私は、自分というものはっきりと理解できないまま過ごして来たようで、勤務先を2転、3転する結果になってしまいました。しかしながら、結果は、結果とし、今まで自分がとった行動を後悔はしていません。

今年30歳。今までの経験をばねにして、自分自身を確立し、また、現実に、立ち向かうとしております。とにかく、今、頑張っています。

京都学園大学前学長 田杉 競

今回、ゼミ第5期の同窓会が開かれることになった。これは、本学のゼミ出身者にとって画期的なことと思われる。我が京大学生時代のゼミの先生の同窓会は計30期にわたり約500名、先生の存命中はもちろん、亡くなった後まで少なくとも年一度は集まっている。私自身のゼミも約500名程、毎年一度は集まっている。ほかにも同期のものだけ集まっている年度もある。

ところが、この大学の卒業生は、年賀状をくれるものもごく少数だし、ゼミ同窓会もなかった。今度こうして同窓会ができたことは、まことに嬉しい。諸君が卒業後、それぞれの職場で活躍し、人間的にも成長しているのを見るのは先生の「商売冥利」というものだ。私はまもなく、77歳。喜寿を迎える。皆さんが祝ってください感謝に堪えない。幹事さん達にも厚くお礼を申しあげたい。

田杉先生の描かれた名画



フリートーク FREE TALK

Chor 旧教職員の方々に自由に語っていただいたフリートークのページ。熱いメッセージとして、受けとめてください。

ある同期会碑



京都学園大学
元学生課長
野田 幸夫

卒業生の皆さん。日頃は各分野で、それぞれ活躍のこととお喜び申し上げます。20代、30代は、仕事であれ何であれ、一筋に熱中しきれた年代です。若い月日に悔いのないよう、また母校の声価を高めるためにも、皆さんのご健闘を期待します。さて、この機会に、昨今の防衛費や靖国問題の政治論議をよそに、高野山、西門院の一角にひっそりと立っている、ある同期会の記念碑を紹介させていただきます。

碑面には、かつてシーレーン防衛に挺身した、教官、同期生会員の名と、次の碑文が深く刻み込まれています。

『昭和18年12月10日、太平洋戦争たけなわの頃、文科系の大学、高等専門学校の学生生徒が、学業半ばに海軍に徴募され、翌2月1日、選抜抜かれて、防備専修予備学生として、海軍対潜学校に入校した者、その数、468名であった。』

10か月に余る教官、学生一体の峻烈な士官教育を経て、19年12月25日、海軍少尉及び少尉候補生に補任せられ、ある者は特攻兵器、回天、蛟竜に艇長として搭乗し、ある者は、連合艦隊残存全艦艇に航海士、水測士、艇長として乗り組み、又ある者は、国土防衛最先端の防備衛所長として、各地の防備隊や特別根拠地隊に赴いたのであった。

この碑は、若くして群青の海に戦没し、青春を祖国に捧げた戦友への鎮魂の碑であり、また長らえて、廃きよと化した国土再建のいしずえとなり、桜花の片弁の散る如く幽界に去りゆく者の銘碑であり、墓標である。

祖国日本の悠久と、民族同胞の平安繁栄を祈りつつ、対潜4期の同期の桜、すべてここにねむる。』

念願のこの碑を建立した私たち生き残りの同期生は、57年9月9日、ご遺族も招き、除幕式を行いました。そして東また西に、折にふれては会い、集い、お互いの健在を確かめ、消息など語り合っています。

学風とは……

大学入学を境に学生は、それまでの学校主導の保護・強制から一変して、度々、言動自己責任主義の教育を受けることになった。

もはや、大学は千の学生が指導されて一様の型に仕上げられる場ではなくて、千の個性が、それぞれ開花する場となった。

ところが京大は京大生か○大生かは、後姿からでも当てるといふ。

我々も慶応ボーイは1人でも、集団でも、直ぐに見分け、他大学の学生と混同することはない。かかる判断は日本中の通り相場である。よってみれば、大学は千の学生をして千種の歩調をとらしめるだけではなくて、全員の歩調を一にするを許容するようにも見える。

誠に前者は戦後の社会激変にあたって、重大な役割を果たした。

後者は連帯を唱えねば、救い難いような現世相には必要なものであろう。

学校教育は、高等になればなる程、教育的狭隘、固陋に走りがちであるから、ここに前後者両主義を併せた教育様式が待望されてくる。

野球ばかりしている学校には尊敬すべき校風もないし、その中学、高校が大学とかわっても同様、学風といわれる程のものもない。

学風と呼ばれるに値するものは、学の内外から尊敬をもって、公認されるものでなくてはならない。

独立自尊、Be ambitious、全人的教養などは、それぞれの大学の学風を示す旗印である。気概のある青年がその下に集まり、講義科目の点数が低かろうと、留年の憂き目に会おうと、凡ゆる学友から友人にしたいとされる程の人物となるならば、学風、にわかに上がり、その大学教育は成功したものであるとしてよいであろう。



京都学園大学
名誉教授
若木 礼

夏休みたった中のキャンパスはガラんとしている。だが広びろとしたグラウンドでは、体育会系の各部のメンバーが、日焼けした肌に汗を流し、大声をあげて元気に練習している。そんな中に、自主トレに励む野球部ナインの姿もある。

「創立以来の歴史あるうちの野球部、実は元タイガースの正捕手・徳網茂さんが体育の先生をしながらつくった、いわば由緒ある野球部なんです。当時はだから、タイガースからボールやユニホームなんかをプレゼントされたこともありましてね」



▲試合直前のインタビュー。投手陣の強化と個々の力をいかに総合力として爆発させるかだ、と語る西村明浩キャプテン。甲子園組も増えてきたと少しやりますよ、と秋季リーグに早くも夢を馳せる、次期キャプテンの山本健志君。息の合ったところを見せる。



▲俺のいまの打率は？ なかなかのもんだ！ 頭をつき合わせてスロアブックをのぞき込む。日焼けした首筋がたくましい。

▼打順がまわって、さあ、次は俺の番、いっしょう、やっつるで。そんな闘志を秘めてチームメイトに無言の応援。



OBのみなさんも、応援たのんます 野球部ドキュメント

秋季リーグに挑むKGUナインたち

もう1歩、あと1歩、というところで、京滋リーグの制覇に手のとどかない、わが京都学園大学硬式野球部。同窓会員のみなさんに、その自主トレぶり、練習試合ぶりを報告することで、応援の輪を広げていただきたいと思ひます。このオープン戦ぶりをみて、いま一度「青春」の血をたぎらせてほしいものです。

と語る東條晋野球部部長。徳網茂先生、米田貞一郎先生に続いて、3代目に就任した野球部部長だ。岩手大学時代はサードで5番。現在は語学の教授、野球部部長として、みなさんの後輩を温かく、ときには厳しく指導している。

「京滋リーグではいいところまでいっている。佛教大学に追いつけ、追い越せ、といったところだが、今期秋季リーグには先輩のみなさんにも、ぜひ球場まで応援にきていただきたいですね」

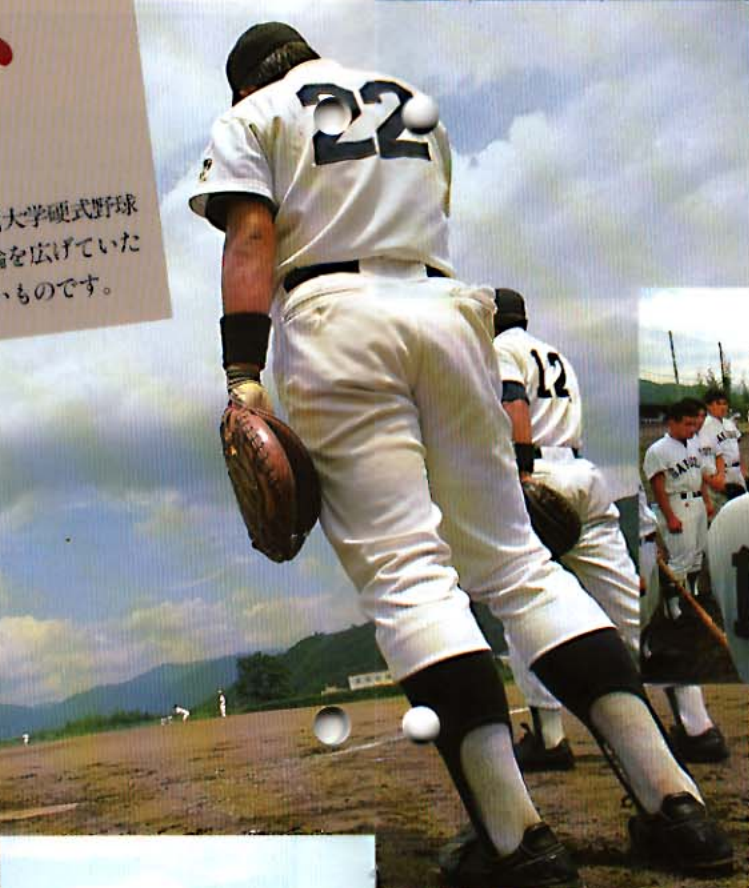
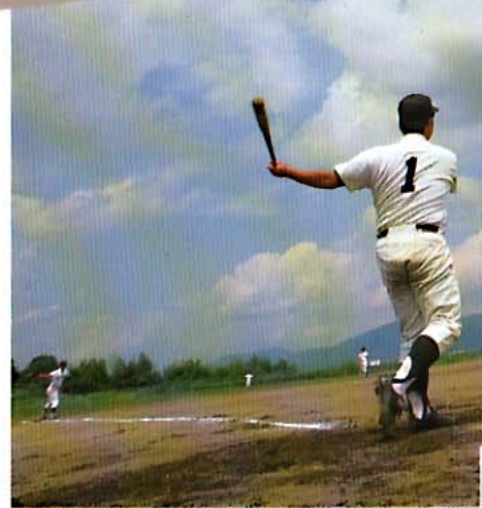
というのは、キャプテンの西村明浩君（経済学部経済学科4回生）。次期キャプテンに決まっている山本健志君（経済学部経済学科3回生）も、

「甲子園組の入部生も増えてきている。素質を伸ばしていけば、バッティングには自信のあるうちの野球部のこと、総合力でいいところまでいける」

となかなか鼻息が荒い。しかし、東條野球部部長は、そのファイトに手綱をしめる。

「早く強くなろう、勝とうと思うあまり、マナーがおろそかになってはなんにもならない。ファイトはいいが、社会人としてのマナーはキチンと身につけさせたい」

秋季リーグの結果は残念ながら佛大の2勝0敗で負け越しでした。



▲今日はなんとしても勝ちたい。大体大はなかなか強豪ぞろいのようなだから、みんな、しまつていこうぜ。円陣を組むKGUナインの背番号がまぶしい。

▲この中から、秋季リーグのヒーローになるのは誰か。乞うご期待。

▲ダグアウトは、うだるような暑さ。だけど誰も暑いとはいわない。やる気満々なんだ。暑さに勝てないようでは、試合にだって勝てない。みんな、こんな中で黙々と練習しているんだから……。

▲広びろとしたグラウンド。汗が、ボールが飛び、スパイクが駆けめぐる。うだるような夏のまっさかり、練習は夕日の沈むころまで続く。ノックする音が風に乗って学舎にまで飛び込んでくる。



▲さあ、いよいよ試合開始。みんなの視線がグラウンドに集中する。緊張の瞬間だ。8月26日、PM1:00からKGUグラウンドで行われた大阪体育大学戦。1回裏、わがKGUナインは満塁ホームランで一挙4点を叩き出し、試合を有利に進めた。

▲自営業を営む前田剛一監督。二足のわらじをはいって試合直前に登場。出塁後ランナーをどう進めるか、各自が工夫することだ、と打撃チームらしいアドバイス。OB監督らしく気合いが入る。

昭和62年度 京滋大学野球連盟 春季リーグ戦(I部)

順位	大学名	佛教大	京教大	滋賀大	大谷大	学園大	京府大	勝点	勝敗	勝率
1	佛教大	★	○	○	●	●	○	4	9-3	.750
2	京教大	●	★	○	●	○	○	4	8-4	.667
3	滋賀大	●	●	★	○	○	○	3	6-7	.462
4	大谷大	●	○	○	★	○	○	2	7-7	.500
5	学園大	○	○	○	○	★	○	2	7-7	.500
6	京府大	○	○	○	○	○	★	0	1-10	.091

▼同窓会員のみなさん、今年の秋季リーグには、ぜひ球場まで応援にきてください。審りそつたヘルメットが、KGUナインの気持を代弁している。



卒業生ドキュメント

元祖「ぼたん鍋」の味を現代人の嗜好に生かす

新造一夫さん(昭和54年卒)

昨年、突然、お父さんが病気で倒れて、元祖・ぼたん鍋で知られる京料理「畑かく」の経営いっさいを取り仕切るようになった新造一夫さん。学生時代、たっぴりとあった自由な時間を使って、仲間と思いきり遊んだことが、なつかしい思い出として、また現在の仕事への励みともなって残っている。(S.90年10月)



● 京都の上御霊前にある京料理「畑かく」は、ぼたん鍋の元祖として知られている。新造一夫さん(29歳)は、この「畑かく」が現在地に店をかまえてから数えて三代目になる。

「11月中旬から猪猟が解禁になって、ぼたん鍋の季節になります。冬の間は、このぼたん鍋が中心で、春・夏・秋は、いわゆる京料理の会席となります。」

この「畑かく」は、大正中頃まで、京都雲ヶ畑の料理旅館であった。雲ヶ畑は、その当時、猪狩りの御猟場で、新造さんの祖父の代まで、猪狩りに来るひとを相

手に猪鍋などの料理を出していた。

「それが祖父の代になって、現在のところに出てきた。そのとき、祖父は、それまでの猪鍋に工夫を凝らして、ぼたん鍋を創始した。猪肉の切り方や野菜の種類、それから味付の味噌などをいろいろためして、試食会もやったということです。この味噌は、現在でも秘伝です。そこから、うちが元祖ということになったんです。」

明治末期に、この雲ヶ畑の御猟場で、ある事件が起こった。帝国海軍の東郷平八郎元帥の御一行が御猟場で猪狩りをしていて、喪を着て弁当を運んでいた祖父の弟を猪と間違えて射殺した。今も「畑



かく」には、その事件のことを詫びた東郷元帥の書簡と書が残っている。

「この元祖ぼたん鍋の伝統の味を現代にどう伝えていくか。現代の若い世代の嗜好に合わせて、この伝統の味をどう生かしていくか。それが今後の私の大きな課題のひとつとなってきますね。」

● 昨年、新造さんのお父さんが病に倒れた。その日から突然、店の取り仕切りいっさいが、新造一夫さんの肩にかかってきた。知人の紹介で金沢大学の附属病院に入院した父の看病で、お母さんも、毎週金沢へ行くようになった。料理屋の仕事に、女の手は欠かせない。必然的に、新造さんの奥さんの仕事もふえてきた。

「父が病気になるまで1年、現在のところ、どうにか2人で留守を守っているという状態です。父はまだ53歳で、まだまだ隠居するような年齢ではない。2日に1度は電話連絡して、いろいろ相談しています。とにかく早く回復して店に戻ってきてくれたらと思います。」

6年前、この「畑かく」は、現在の数寄屋造りの建物に増改築した。まだ大学を卒業したばかりだった新造さんは、その時、この増改築に設計段階からかかわった。床柱や建具はもとより、照明器具ひとつにも、新造さんはこだわった。設計が終わった段階で、予算は3倍にもふくれあがっていた。それでも、お父さんは何ひとつ注文をつけないで、新造さんの好きなようにさせてくれた。

「父に代わって、銀行関係や税務関係の

仕事を自分でやるようになると、あの時、父が相当無理をしたことがよくわかります。それだけに、ここで、ちょっと自分も、きばらないかんと思っています。」

6年前の増改築は、いずれ店を継ぐことになる新造さんへのお父さんの饒でもあったのだ。父に代わって、店を取り仕切るようになって、父のその思いが痛いほどよくわかる。そして、父の留守をしっかりと守っていかなければならないと考える。

● 新造さんの毎日は多忙をきわめている。朝は店の者が出てくるまえに店を開け、鞍馬口にある市場に仕入れに出かける。そして、そのあと店にもどって、昼の仕事。平日は、昼の弁当の仕出しもやっている。土曜日と日曜日は、昼過ぎから客で賑わう。店を閉めるのが9時過ぎ。跡始末をして、帳簿を片づけ、風呂に入ると、もう11時を過ぎている。

「子供のころ、土曜日など、学校から帰



ってきても、すぐ昼ごはんを食べられないことがよくあった。そんな時、子供ごころに、何で料理屋なのに昼ごはん食べられへんのやろと思ったけど、自分に子供ができてみると、よくわかる。これも順ぐりです。子供も可哀相だけど、仕方のない面もあります。」

月曜日は週休だが、それでも集金日と重なったり、また予約の電話などがよくかかってくる。3歳になる長女と今年生まれたばかりの長男の相手をしながら、休日もやっぱり仕事になってしまう。

「それでも、私の子供のころとは違って、現在は週休制になっている。もちろん、こうした労働面でも、今後少しずつ改善していかなければならないと思っています。」

● もうひとつ。ここ数年のうちの課題として新造さんが考えているのは、弟のために支店を出すことである。弟さんも、新造さんといっしょに、店で働き始めている。

「料理屋の場合、シェアを広げようとするれば、店舗をふやしていく以外に方法はない。そのためにも、ここ数年、この本拠で、きばらないかんと思っています。」

現在、店では、6人の板前さんが働いている。そのうちの1人は、祖父の代からの板前である。この板前さんについて、さらに料理の腕をみがくこと。これも新造さんの大事な課題となっている。

「板前は男の仕事です。料理では、私もまだまだ未熟な面がある。これは、ずっと修業です。」

こんなわけで、新造さんは、いってみれば毎日が、きりきり舞いで、多忙な日々を送っている。そのため、大学時代の友人とゆっくり会うこともできない。

「こうした仕事をしていると、遊ぶことはもちろん、ゆっくり友達と話をする時間もありません。その点、学生時代には、いろいろなことができる自由な時間がたっぷりとありました。夏休みに、みんなと自動車北海道旅行をしたり、卒業試験のあと、仲間とヨーロッパ旅行をしました。もちろん経済学をもう少しやっておいたらよかったと思うこともあります。学生時代どれだけ遊んでいても、仕事につくと何となくおさまるもので、自分に与えられた自由な時間を思いきり使って遊んだ学生時代に悔いはありません。」

ところで、京都学園大学には、京都の老舗の2代目、3代目という子弟が多い。インタビューの最後に、同窓生へのメッセージを求めると、新造さんは、こんなことを話してくれた。

「2代目、3代目ということは、それだけで他のひとにないプラスアルファがあるということです。たとえ10年、20年でも、自分の店の基盤があれば、ほかのひとはスタートが違う。よく家業を継いで勤めに出るひとがいますが、親孝行などということではなく、その基盤をもとに、自分の仕事として、京都の伝統を現代に生かして行ってほしいですね。」

冬を迎えるとともに、ぼたん鍋の元祖「畑かく」は繁忙期に入る。そこには、父の留守を守って店を取り仕切る新造一夫さんの生き生きとした姿が見られるはずである。

新造一夫(29)さん
京料理「畑かく」
(元祖・ぼたん鍋)
京都学園大学経済学部
経済学科・昭和54年卒

高校時代、放送部にいたこともあって、音楽が趣味だが、最近はゆっくりレコードを聴いたり、ダビングを楽しんだりする時間もなくなっている。しかし、暇を見つけては、2人の子供さんの成長ぶりをVTRに撮って、子ばんのうぶりを見せている。

みんな、それなりに多忙な年齢にたっして、新造さんと同じように、学生時代の友人と会う機会も少なくなってきた。そこで同窓会報 Cheer 編集部は、ここで、新造さんといっしょに、同窓生全員に、がんばれよ、と、一言、仲間としての励ましの挨拶を送りたい。

大学専門委員会はわが国における18歳人口の推移と、高等教育機関の整備充実の現状の上において、京都学園大学の将来的発展と、亀岡市における高等教育機関としての社会的責務を全うするため、現代における緊要なる学部の新設を目指して討議をすすめた。その過程において充実施策の一つとして昭和61年度よりとりあえず入学定員の増加を行うべきことを提言し、すでに理事会で採択され、昭和61年度より昭和74年度までの期限付定員変更の申請を行った。その後、学部増について研究を重ね、先の流通学部構想については、現学部の教育課程の改善を通してその意図を実現する方途を講じるものとする。

新学部については、京都市以北と北陸、山陰地区にもその設置の少ない「法学部」を適当とする結論に達し、昭和64年度の大学創立20周年を期に開設することとし、昭和62年7月文部省に増設申請を行った。

1. 新学部を法学部とする背景について

- 京都市以北で北陸、山陰地区は、国立大学5大学、私立大学6大学が設置されているが、法学系統の学部・学科を有するのは、金沢大学法学部(入学定員180名)、島根大学法文学部法文学科(入学定員165名)の2大学に過ぎない。京都市内においても法学部を有する大学は、京都大学のほか私立大学に4大学となっている。
- 最近の北陸、山陰地区の進学状況は大学進学者のうち、石川県で70%、福井県80%、鳥取県85%、島根県80%程度が他府県に流出しており、京都府への流出率は、石川県7%、福井県11%、鳥取県10%、島根県8%程度となっている。
- 京都市内の法学部を有する私立大学は現在4大学で、入学定員2300名である。
また、最近の近畿地方での法学部設置申請の状況は、昭和62年度開設予定の奈良産業大学法学科(入学定員200名)と姫路独協大学法律学科(入学定員300名)の2大学である。
- 法学部への志願状況は、全国で約8.4倍であって国立2.8倍、公立3.9倍、私立9.6倍となっている。
近畿では9.0倍で、特に京都市内の私立大学の昭和58年から60年までの倍率の動きは下表の通りである。

(倍)

大学	年	58	59	60
同志社大		10.46	11.28	9.9
立命館大		13.65	12.47	9.5
龍谷大		16.50	20.21	10.3
京都産業大		11.60	13.24	9.7
4大学計		12.50	13.71	9.8

昭和60年度は競争倍率が若干、低下しているものの依然として10倍近い実勢を有しており、法学部志向の強いことを示している。

- 大学の将来を考えると、普遍的かつ基本的な経済学部と法学部を有することは、時代の潮流に便乗した学部とするよりも勝っていると考える。

1. 本学の目指す法学部とは

- 現代社会の国際化、情報化、多様化への時代の変化と共に、国民生活や経済活動等に幅広く法律とのかかわりあいが生じ、経済活動をはじめ社会生活において法的知識や法的思考能力を持った人材が、法律専門家に限らず、広く一般に求められる傾向にある。これに対応するためには、従来の法学教育では十分でなく、ビジネスに必要な法学教育、つまりビジネス法学を身につけさせる必要があり、全国でも稀なビジネス法学教育を目指すものである。
- 法学的立場に立って柔軟な思考力を修得させ、わが国を始め世界各国における地域開発、自然環境と住民とのかかわりを法的立場から解決する素養を身につけさせる。
- 日常的諸問題を法学的な手法で解決できる能力を培うため、「法実務」「専門総合科目」を設け、都市開発、会社関係、契約、金融関係などの法実務を関係官庁や商社などにおいて実践的な事象を学び、法と企業経営、生活と環境、国際投資・開発問題などについて学際的立場から実務教育を施すものである。
- 特に将来の国際的立場に立ってこれらの処理能力を培うため語学教育・英会話などに力点をおくようにする。

以上の観点に立って京都大学、神戸大学、立命館大学の協力を得て斯界の権威ある教員スタッフのもとに開設することとし、去る7月に開設申請を提出した。

引き続き10月、11月に各々の建議会より事情聴取が行われ、明年秋には現地調査を経て明年末には認可をとりつけるべく総意努力中である。

往復書簡

昭和49年 経営学科卒・久世善春さんから米田貞一郎先生への手紙

米田先生、月日が過ぎるのは、早いものです。学校を卒業してから12年がたちました。

勤務をしている県立西城商業高等学校は、先生もご存知のとおり、小高い丘の上の荻野台と呼ばれる所であって、県北、中国山地を見渡せる風光明媚な景観のすばらしい所に立地しています。

何年前であつたでしょうか。吉田高校に教育実習生が居るとか、広島県におこしになった時、本校を案内したことを思い出します。あの頃は木造校舎でありましたが、2年前に落成記念をし、全館鉄筋校舎になりました。また違った雰囲気があります。一度、お越ししたいものだと思っています。

さて、堅い話になるのですが、「教育」ということがマスコミなどで論議され一定の「理念」だとか「あるべき姿」などが勝手気ままに報道されています。こういう世相の中で私たちは苦勞をしている訳です。

OA化が進むなかで、私たちの思考・行動までが「急ぐ」ことを余儀なくされているのです。こういう世の中ですから、なおさら自分自身の気持ちのもちよう、行動のありように「命」をかけて生きぬくことが大切なのでしょう。しかし、この点がおろそかになっている日々であります。たとえば困った時だとか、応用的な判断を要する場合だとか、科学的・論理的に「思考」をまとめていくことだとか、気持ちを「整理」していくことだとか、つまり、自分の「頭」の中を「訓練」していくこと、このことが必要以上に要求されていますから深刻であります。そんな中で自身の「殻」を破る努力をしていこうとおもっています。そのことが私にとっての「今」のなすべきことだと考えています。叱咤激励をお願いします。

最後になりましたが、私と同じように高校の教員になっている人が、広島県にいる訳です。その人とは、同じ商業科なので時々、顔を会わすことがあるのです。仕事のついでに、大学のこと、先生のことなんかを聞くのですが「大学」のことになると明るく元気なのであります。人にも「自分の後輩」であることを自慢しなくなってくるのは、どうしてでしょう。この時、「頑張らなくて」という気持ち

になってきます。そういう気持ちのありようが、私たちの「行動」を前進させていくものと信じて、お便りいたします。

米田貞一郎先生からの返信

久世君、お便りをありがとう。

君を勤務校にお訪ねしたのは、7年前、昭和53年初夏の頃でした。その時のことを、色々思い出しながら、お便りを拝読しました。

10年余の多難な教壇生活を通して、今、何が自分にとって重要かと問い直しながらの精進ぶりを拝察して、さすがだと敬服をしています。臨教審をはじめ、色々な所で、色々な機会に教育が論議されていますが、窮極は実践に尽きると思います。現場の教師にしっかりと自己確立ができていなければ、何をいっても教育の成果をあげるわけにはまいりません。目まぐるしく変化してゆく社会情勢のなかで、自己を見失わず、自己の人格完成を目指して、職場で、家庭で集中して行動する修業こそ、君のいう、「今、なすべきこと」ではないでしょうか。

幸い、君の前には、君の言動の鏡となってくれる若い青少年がいます。彼らの成長・発達を見据え、彼らの生きようとする欲求をその人格形成の道にどのようになかしてゆくか、その手助けをどれほど適切にやれるかを工夫することから、また君自身も自己確立を果たせるといえます。頑張ってください。

書中にある、後輩の高校教員というのは、県立福山商業高校の船満千尋君(58年卒)のことではないでしょうか。彼女には、この夏、在日韓国・朝鮮人教育全国研修会に入浴の時、会いました。彼女の口から、君の活躍ぶりを聞きました。

また、教師に心を開いてくれない一女生徒が、一学期たって、やっと自分に打ち解けてくれ、母親と一緒に話し合いができるようになったと、これからの抱負

を語ってくれました。折に触れ、経験を交流しながら切磋琢磨されることを祈ります。

大学もずいぶん立派になりました。新しい校舎もでき、クラブ・ボックスも鉄筋・2階建てに変わりました。来年4月からは、学生定員も100名(経済・経営両学科、それぞれ50名)の増加を文部省に申請中です。もっとも、この増員は、ご承知の高校生急増期対策による今後5か年間の臨時措置なので、これを足がかりとして、恒久的増定員、学部増を願っています。それについては、数年後の高校生急減期という安閑としてられない大きな課題があるわけですが、本学としても、今から心を新たに、その難関を乗り切るための備えをせねばならないと申し合わせています。

そこで、本学の将来の発展の一助ともなろうかという提案があるのです。それは、京都学園大学同窓会中国・四国地方支部の結成ということです。広島県中心に、山陽・山陰・四国各地方にわたって同窓生の数は、他地方に比して、優れて多いのです。第1回卒業から相次いで、有力な活動家もおられるように見受け

ます。本学としても、御地、広島市と四国高松市では、毎年、父母の会教育懇談会、入試説明会と入学地方試験を開催してきました。それだけに、同窓会支部が結成されれば、何かと連携活動ができるようになるのではないのでしょうか。

同窓会本部でも、一昨年、設立10周年を祝われ、その後、支部結成についての声も出ようとしている折、ご一考くださるだけの課題ではないかと考えます。一肌脱いで、ご尽力くださるよう願います。

では、益々ご自愛くださって、ご活躍のほどを、併せてご家族の皆さんのご多幸を祈ります。



京都学園大学同窓会
昭和61年度決算書

MESSAGE

体育会系クラブ メッセージ

●収入の部 (単位:円)

科目	決算額
前年度繰越金	900,278
会費	0
雑収入	618,681
積立金より移算	2,605,334
収入の部合計	4,124,293

●支出の部

科目	決算額
事業費	1,577,450
福利費	23,790
印刷製本費	1,000,160
広報費	553,500
助成費	999,250
各種団体助成費	599,250
支部助成費	400,000
会議費	53,130
会議費	0
旅費交通費	53,130
事務費	224,150
人件費	224,000
消耗品費	150
翌年度繰越金	1,270,313
支出の部合計	4,124,293

■弓道部

わが弓道部は現在、部員数が1年生4名、3年生2名、4年生3名の合計9名の少人数ですが、日曜日を除く毎日、厳しい練習に励んでいます。しかし、これまでの戦績では京都選手権、関西選手権と共に思うような結果が残せず、これからの全日本選手権、及びわが部の目標である関西リーグ戦優勝に向けてより一層練習に励み、精進していきたいと思えます。又、OBの皆様方には一昨年の道場建設の際、いろいろとお世話になり有難うございました。この弓道場に恥じないようこれからもがんばります。

■剣道部

私達剣道部は、9月14日に行われる関西学生剣道優勝大会ベスト8、そして全日本学生剣道優勝大会出場をめざして、日々稽古に励んでおります。今年のこれまでの戦績におきましては、西日本大会2回戦敗退、京都学生大会では、昨年3位入賞にもかかわらず、今年は4位と残念ながら満足な成績を残せておりません。しかし、このくやしさをバネに、夏には例年2回の合宿を3回に増やし、関西学生において、力一杯がんばっていく覚悟であります。最後になりましたが、OBの先輩方においては、去る5月5日にOB会を開いて頂き、合同練習、試合等においてたいへん勉強させて頂き、本当に有難うございました。これからも御指導、御鞭撻の程よろしくお願い致します。

■硬式テニス部

現在、硬式テニス部では、新入部員5名を迎え、3年生6名、2年生4名の計15名で月曜日から金曜日までは4時10分より、土曜日は1時30分より練習に励んでいます。4月のリーグ戦では、京教大に完敗しましたが、5月の亀岡杯ではシングルスにおいて優勝し、6月の京都学生では3R進出者が増え、全員が実力を上げてきています。8月に亀岡杯、関西学生を控え、今まで以上の戦績が残せるよう、7月には大山にて合宿を計画しています。夏期休暇中には、学校側よりコート整備をしてもらえるので9月のOB戦には沢山の先輩方に来てもらいたいと思っ

います。

- 5月 亀岡杯 シングルス優勝
ダブルス ベスト4
- 6月 京都学生 シングル3Rに4名
ダブルス3Rに3組

■ゴルフ部

今、ゴルフ部は1年生、2年生主体の練習をやっています。人数は6名と少ないながら月曜日から金曜日まで毎日校内の練習場で2時間から3時間という少ない時間でやっています。練習設備はあまり整っていませんが、できるかぎりの練習をしています。水曜日は練習場で打ちっぱなしをやっています。試合の方も人数が少ないのですが、できるだけ試合にも出場しています。結果は、4年生の日高が関西学生一次予戦、二次予戦と通過し、本戦出場というわがゴルフ部始まって以来の快挙を成しとげました。全員日高に続くよういっそう練習に励みます。

■サッカー部

今年のサッカー部は、部員32名で、1年生から4年生の層が厚くなり、練習試合は勿論のこと、公式戦にも、自分の力が発揮できるチームとなってきています。春季関西学生サッカーリーグでは、一戦一戦、全力を尽くし、2部Aブロック優勝という成績を修めました。秋季にも、リーグ優勝をし、先生やOBの方々、また、私たちが念願としている、1部昇格をめざして、この暑い夏に厳しいトレーニングを重ねていきます。これからも、御支援、御指導のほどをよろしくお願い致します。5月 春季関西学生サッカーリーグ 2部Aブロック優勝
6月 総理大臣杯予選出場

■柔道部

柔道部は今年で、9年連続関西学生柔道大会で5位、連続全国大会出場、全国大会ベテラン大学の一つとなっています。それに、昨年と今年連続して韓国遠征(関西学連)に3名ずつ参加し、関西の上位校として今後の活躍が期待されています。その上、今年度は京都大会において京産・同大につき実力校となり、今年目標を同大においています。部員の生活は10年前から自主運営の部寮で行っており、OB会、現役父兄会を中心とした後援会組織を作ってもらっていますが、同窓会の御援助を期待したいものです。5月 関西学生柔道大会5位
6月 全日本学生柔道大会連続出場
8月 韓国遠征

■軟式テニス部

現在、軟式テニス部は今ひとつ努力がたりず、関西7部リーグから8部リーグに降格する事になりました。しかし、新入生も多いとは言えませんが、入部しており、全員が7部リーグ返り咲きをめざして毎日練習に励んでいます。OBの方たちも仕事の方が忙しいでしょうが、又クラブの練習の方へ見に来て下さい。

■バスケットボール部

我々バスケットボール部は4年生3名、3年生3名に2年生1名、1年生8名の計15名の部員で、月曜日から土曜日まで週6日練習しています。新チームになってからまだ時間がたっていないせいもあって、チームプレーなどはいま一つですが、個人技には目を見張るものがあり、これからのが大変楽しみです。それに今年は1年生の新入部員が8名と大変多く、来年、更には再来年に期待が持てそうです。今年、練習試合を一つも多く消化し、来年の関西リーグに向けてチームを作りたいと思います。OBの皆様もぜひ御協力いただきます様、よろしくお願ひします。5月 亀岡・丹波バスケットボール2部リーグ全勝優勝

■バレーボール部

昨年、春季リーグにおいて、3部昇格をはたし、今年の春季リーグでは、3勝4敗で4位に入り、岡崎キャプテンを先頭に一丸となって練習に励んでいます。なお、7月2日から4日まで奈良で行われる第13回西日本バレーボール大学男子選手権大会に出場し、秋季リーグでは、2部昇格をめざしています。OBの方のため、これから暑くなるので、夏バテなどしないように、体に気をつけて仕事にがんばってください。4月 春季リーグ戦3部4位
6月 京都選手権大会ベスト8

■陸上競技部

現在、陸上競技部は部員10名で、長距離5名、短距離2名、投てき2名、跳躍1名で構成されています。グラウンドにはかつてなかった300mトラックを造って毎日練習をしています。部員の中には高校時代に国体出場した人もいれば、他のクラブでがんばった人もいます。しかし、現在では全員陸上競技が好きならばかきです。部員全員が自分の記録の限界に挑戦するためにがんばっています。OBの方もこの陸上競技精神を忘れてないで社会の中でがんばってください。

KARTE

文化系クラブ 活動カルテ

■考古学研究会

現在、考古学研究会は木曜日の昼休みに部会、放課後に勉強会を定期的に行っている他、龍尾山にある古墳群や法貴、犬飼古墳群の確認踏査も行っています。また、機関誌の発行が実に不規則的になっていることや、数年前まで出されていた機関誌の復刊など、これからこのあたりが課題になると思われます。これらの他に、今までにたまっての研究成果をいかにして発表するか、等々、多くの課題をかかえて、部員一同、やる気満々の毎日を送っています。

■鉄道研究会

現在わがクラブでは、4年生7名、3年生5名、2年生3名、1年生5名、計20名で活動しています。写真、模型、研究の3班があり、各部員がそれぞれの班に所属して活動しています。写真班では、撮影会、スライド上映会などを行っているほか、学内写真展も行っています。模型班では、模型車輛製作会をやっておりますほか、11月の龍尾祭に向けてレイアウトの製作を行っております。研究班では、近郊区間旅行や、時刻表早引きクイズ大会などを行っております。また、今年の合宿では伊予鉄道を調べることにしております。なお機関誌「丹波路」を12月に発行する予定になっております。OBの方々が、いつでもBOXに遊びにきてください。

■放送・映画研究会

現在、わが放送・映画研究会は学園祭、定期上映会及び各種コンテストに向けて様々な作品作りをしています。その他、NHK京都の番組「くらしのチャンネル」用に2本の番組を制作し、近畿一円でオンエアされました。最近おそろかになりがちだった学内での発表を強化し、部の存在感を高めています。又、渉外部門において他大学との交流を深め、学外でもその名を広めつつあります。今年有望な新入部員を多数、迎えることができ、今まで以上に活発な活動が出来るとも思います。作品数をふやし、学内での発表に力を入れる一方、各種ビデオコンテストへの参加も積極的に

- い、部員一丸となってよりいっそうの飛躍をめざしております。
- 6月 東映太秦映画村見学
- 7月 合宿(鳥取砂丘)
- 12月 京都地区番組発表会

■プラスバンド部

プラスバンド部ラ・フォーレでは1982年創部以来、今年で5年目を迎えました。62年5月現在、21名で活動を行っております。活動は月曜日から金曜日の毎日4時から6時までの2時間、そして土曜日は自主練習としています。曲はポップス、ジャズ、吹奏楽オリジナルをそれぞれやっていますが、昨年度ぐらいからジャズを主体とする傾向になっています。そして今年度からは特別にジャズの専門家の先生を月に一度お迎えして演奏に対する技術面での一層の充実を図っております。今後ラ・フォーレはジャズ、ポップス、吹奏楽オリジナルのそれぞれの曲を完全に使い分けられる、新しいタイプのプラスバンド部をめざしてがんばっていきたいと思います。5月 新入生歓迎キャンプ(びわ湖)
6月 ランチタイムコンサート
7月 亀岡市国体準備スポーツ大会演奏
9月 強化合宿(岡山県)
10月 亀岡市国体選手壮行会演奏
11月 龍尾祭コンサート・短大ジャズダンス発表会賛助出演(京都府会館第2ホール)、亀岡農協祭出演
12月 第3回定期演奏会
第4回亀岡吹奏楽祭(亀岡会館)

人事

理事長交替のお知らせ

昭和61年5月21日付、木下稔理事が、学校法人京都学園理事長に就任されました。

学長交替のお知らせ

昭和62年3月26日付、水野武教授が京都学園大学学長に任命されました。

名誉教授について

下記の各先生に、京都学園大学名誉教授の称号が授与されました。
大畑文七先生 富山興太郎先生
伊吹山太郎先生 堀 数馬先生
広瀬 明先生 米田貞一郎先生
若木 礼先生 田杉 競先生
馬場吉行先生 富田嘉郎先生
小牧實繁先生 松尾一徳先生



川本商事㈱
本社医専事業部 医専一部 二課課長代理

山本宗嗣さん

(京都学園大学経済学部経済学科 昭和48年卒)

川本商事㈱は、衛生材料・医療用品・布帛製品・白衣関係の卸商社として、この業界ではトップクラスに位置する。その医専一部、病院担当の山本宗嗣さんは、二課の課長代理として率先垂範をモットーに、精力的にセールスを行っている。

「入社は、オイルショックの昭和四八年でした。当時は、入社後一週間ほど先輩について回っただけで、あとは得意先のメモだけ渡されて、ひとりて売ってこい、ですからね。商品知識もまだ、ほとんどない頃ですから、何を売っていいかわからない状態でした」

無我夢中だった、という山本さん。しかし、そこは新入社員の強み。知らなくても恥にはならない、と腹をくくって体あたりでセールスをして回った。がむしやりに知識を詰め込み、ひた走って、今日のポジションを得た。

気がつくとも、京都学園大学を卒業して早一二年。縁あって昨年暮れに結婚し、家庭をもった。

「現在は、ただがむしやらとはいきません。部下も数名いますし、職業柄、プロとしての社会的責任も大きいですから」

山本さんは、社内的にもずい分、活躍している。工場任せだった労働組合の活動に携わって四年になる、という。副委員長として、五〇〇名にのぼる組合員の生活改善をめざして、共済会の会則も手直した。とにかく面倒見がいいのだ。

「まず、やってみる、自分の力でなんとかしてみよう、という精神は、大学時代に養われたような気がしますね」

京都学園大学は当時、誕生間もない大学だっただけに、山本さんはずい分、大学づくりに励んだようだ。

学友会も、クラブ活動も、まだなかった。自ら代議員の議長となり、数名の仲



ビジネスにも “気概”がある

間と各大学を回って、学友会や自治会の資料等を集め、現在の学友会の基礎をつくった。クラブづくりにも力を入れ、写真部をつくり、卒業まで部長も務めた。

「若い内に、できることはなんでもやってやろう、という気概がありましたね。まあ、有意義な大学生活だった、と思います。やり残した、という悔いはありません」

その気概が、ビジネスの場でも大いに役立っているわけだが、「自分たちの手でなんとか、いい大学にしたい」という気概は、同期の仲間の皆がもっていた、と当時を懐かしむ。

「いい大学、いい同期の仲間にも恵まれた、と思っています。それぞれ忙しくなると、会う機会もなかなかつかれませんが、あの同期の仲間たちのこと、きつとがんばって、いい仕事をしていますよ」

さわやかな言葉を残して、山本さんは颯爽と街へ飛びだしていった。



京都学園大学同窓会

〒621 京都府亀岡市曾我部町南条 ☎ 亀岡(07712)2-2001(代)